

2023年度決算 TBSグループ 中期経営計画2026 説明会

株式会社 **TBS**ホールディングス

本日はお忙しい中、ご参加頂きまして
誠にありがとうございます。
只今より、
TBSホールディングスの2023年度決算、および
TBSグループ中期経営計画2026
についての説明会を開催いたします。

本日の資料とスケジュール

1 TBSグループの業績 TBSグループ 中期経営計画2023の実績

代表取締役 河合 俊明

2 TBSグループ 中期経営計画2026

代表取締役社長 佐々木 卓

使用する資料はこちらです。

3 質疑応答

1



2



本日の資料は、昨日発表いたしました
「2023年度 決算資料」、
「TBSグループ中期経営計画2026」を
ご参照ください。

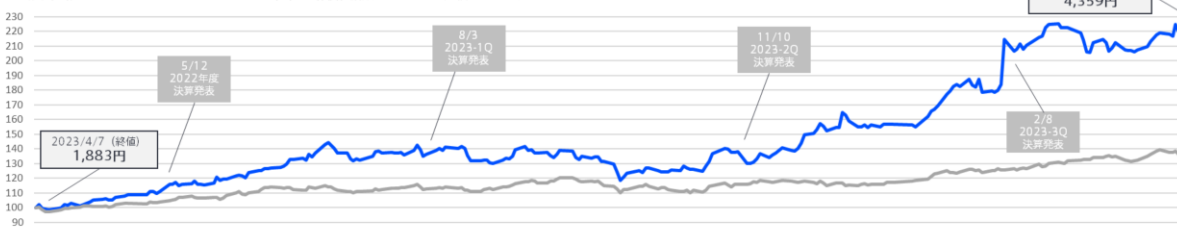
まず、
TBSグループの業績、および
TBSグループ中期経営計画2023の
実績について、河合より、
続いて、
「TBSグループ中期経営計画2026」について、
佐々木より、ご説明いたします。
そのあと、皆さまからのご質問には
役員一同でご回答するお時間をとっております。
この機会にぜひ、ご質問ください。

それではまず、
代表取締役の河合より、
TBSグループの業績についてご説明いたします。

この1年

TBS

株価推移 — TBS — TOPIX ※2023/4/3の株価、指数を100として比較しています。



2023年

4月

4/21
Amazon Original
「嵐をたけし城」
世界配信スタート

5月

5/9
文字起こしエディタ「もしこ」が「TReviews Grid Award 2023 Spring」で「Leader」受賞

5/14
SDGsプロジェクト「地球を笑顔にするWEEK」第6弾を実施

6/29
やまびこエッジグループホールディングスに出資、連結子会社化

6月

6/22
Netflixシリーズ「嫌嫌しようよ」世界配信スタート

6/29
USEN-NEXT HOLDINGS (現:NEXT HOLDINGS)と資本業務提携強化に基づくパートナーシップ協定締結

7/5
「TBS GAMES」ティザーサイトオープン、ゲーム事業に本格参入

8/31
「TBSグループ統合報告書2023」発行

9/22
民放連賞優秀賞「メディアプランチ」と「メタ付AIプラットフォーム」がダブル受賞

10/2
ブランドメッセージ「ときめくときを。」作成

10/8
全国28局ネットアニメ特撮新説「メタ付AIプラットフォーム」を基にした種目が2028年ロサンゼルス五輪近代五輪採用

10/16
「SAKURA」を基にした種目が2028年ロサンゼルス五輪近代五輪採用

10/25
TBSグループの新たな共通ID「TBS ID」サービス開始

11/5
SDGsプロジェクト「地球を笑顔にするWEEK」第7弾を実施

11/6
「特別刊行（投資有価証券等売却）の計上見込みに関するお知らせ」発表

11/10
「自己株式取得に係る事項の決定及び自己株式の消却に関するお知らせ」発表

11/28
「人権小委員会」設置および人権デューデリジェンスの実施について」発表

12/1
THE SEVEN専用スタジオ「TM6スタジオ」完成

12/11
株主総特制度の発表を発表

12/23
Studio Toon 初連載作品が「LINEマンガ」にて配信スタート

12/25
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」初選定

2024年

1月

1/1
「ニューイヤー祝伝」でCO2排出実質ゼロで放送

1/4
ブランドメッセージ「ときめくときを。」ホームページアル作成

1/25
松竹との資本業務提携に合意

2/6
取締役報酬情報開示における国際的な評価基準「TCO」で日本の放送局として初めて「B」評価を獲得

2/15
THE SEVENがバーマット・プレゼンテーション社と国際共同製作に合意

3/4
SLHがKNT365の株式を100%取得

3/11
「健康経営優良法人2024（ホワイト500）」に民放キー局で初選定

3/13
赤坂二、六丁目地区開発計画「新築工事着手」

3/29
VFXクリエイター集団 Megalisへ資本参加

(河合代表取締役)

河合です、どうぞ宜しくお願いします。

では、資料4ページの
「この1年」をご覧ください。

23年度を振り返ってみますと、
5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、
社会・経済活動の正常化が進展しましたが、
原材料高や物価の上昇などがあり、
厳しい外部環境でございました。

こうした中、当社グループは
「中期経営計画2023」の最終年度として、
テーマである「ポストコロナを見据えた成長への種まき」を
着実に進めてまいりました。

2023年度決算

- ▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。
親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益の増加などにより増益。
通期累計では過去最高の売上高を更新。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、スポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。また、映画の大ヒットや、DVD販売が大幅に増加し、増収。
一方で、放送収入の減収に加え、番組制作費の増加などにより、減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結を行い、売上高・利益ともに増加。
また、スタイリングライフグループでは、化粧品、雑貨などが伸長したことにより、増収増益。
- ▶ 不動産・その他事業は、賃料収入の増加などにより、増収増益。

2024年度 業績見通し

- ▶ 放送収入は前年と同水準としつつも、成長分野である配信などの拡大や、スタイリングライフグループの雑貨小売販売事業、ビューティー＆ウェルネス事業や、やる気スイッチグループの成長などを見込み、増収かつ営業利益までの増益予想。
- ▶ 「TBSグループ中期経営計画2026」の初年度として、
拡張戦略「EDGE」による成長を加速し、コンテンツポートフォリオの拡充へ。

5ページは「連結決算のポイント」です。

23年度の連結の業績は、増収、営業減益でした。
通期の売上高としては、過去最高となりました。

24年度は、増収、営業増益を予想しています。
中計2026の初年度として、
拡張戦略「EDGE」による成長を加速し、
コンテンツポートフォリオの拡充を目指してまいります。

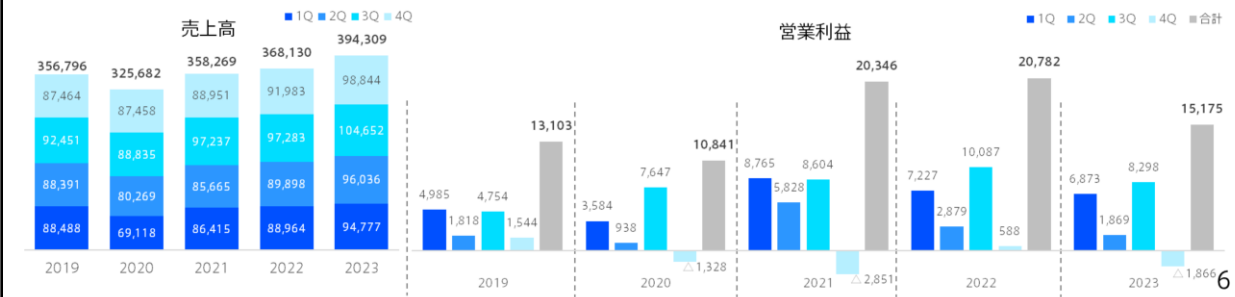
連結損益計算書

TBS

▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券売却益の増加などにより増益。

(単位：百万円)

連 結	2022年度	2023年度	前 年 差	増 減 率
売 上 高	368,130	394,309	+26,179	+7.1%
営 業 利 益	20,782	15,175	△5,607	△27.0%
経 常 利 益	35,086	27,653	△7,433	△21.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	38,126	+2,944	+8.4%



6ページは、連結の損益計算書です。

売上高は、
前年比プラス7.1%、金額にして261億円の増収となりました。

一方、
営業利益は、マイナス27.0%、金額にして56億円の減益となりました。

連結セグメント別 実績

TBS

(単位:百万円)

	外部売上				営業利益			
	2022年度	2023年度	前年差	増減率	2022年度	2023年度	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	285,230	287,854	+2,624	+0.9%	10,911	3,927	△6,983	△64.0%
ライフスタイル	66,391	89,903	+23,511	+35.4%	3,064	4,178	+1,113	+36.3%
不動産・その他	16,508	16,552	+43	+0.3%	6,798	7,066	+268	+3.9%
調整額	—	—	—	—	8	3	△5	—
連結	368,130	394,309	+26,179	+7.1%	20,782	15,175	△5,607	△27.0%

増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TCエンタテインメント (+1,926) 日音 (+668) TBSグロウディア (+452) TBSテレビ (△574)	TBS HD (+1,247) TBSグロウディア (+876) TBSテレビ (△7,628)
ライフスタイル	やる気スイッチグループ (+17,666) スタイリングライフグループ (+5,844)	やる気スイッチグループ (+705) スタイリングライフグループ (+408)
不動産・その他	TBSテレビ (+624) TBS HD (+328) 緑山スタジオ・シティ (△839)	TBS HD (+543) TBSテレビ (+447) 緑山スタジオ・シティ (△263)

7

続いて、連結セグメント別の実績です。

売上高は、すべてのセグメントで増収でした。

営業利益は
「メディア・コンテンツ」が減益、
「ライフスタイル」は増益、
「不動産・その他」も増益でした。

増減要因を
次の8ページのグラフでご説明します。

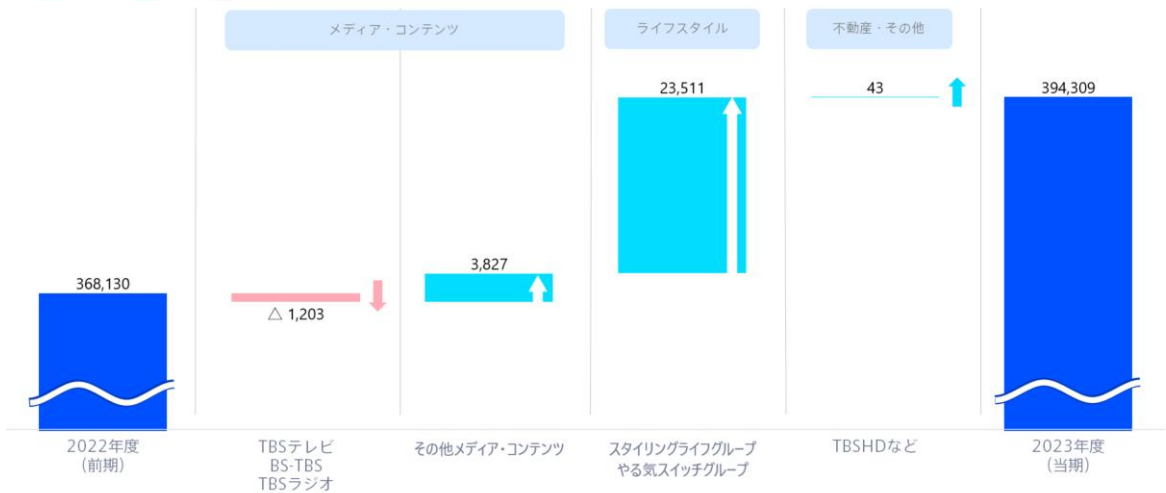
連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

TBS

メディア・コンテンツ事業は、スポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長に加え、映画が大ヒット。また、TBSグロウディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し、増収。
ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結による増加に加え、スタイリングライフグループの化粧品、雑貨などの伸長により、増収。
不動産・その他事業は、賃料収入の増加などにより増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



8

まず、売上高の増減要因です。

「メディア・コンテンツ」では、左から2つ目のグラフで示した放送関連の会社において、放送収入の減少を、配信広告収入や有料配信収入がカバーしたものの、わずかに減収となりました。

その右の、「その他メディア・コンテンツ」は、DVD販売の好調などで、増収でした。

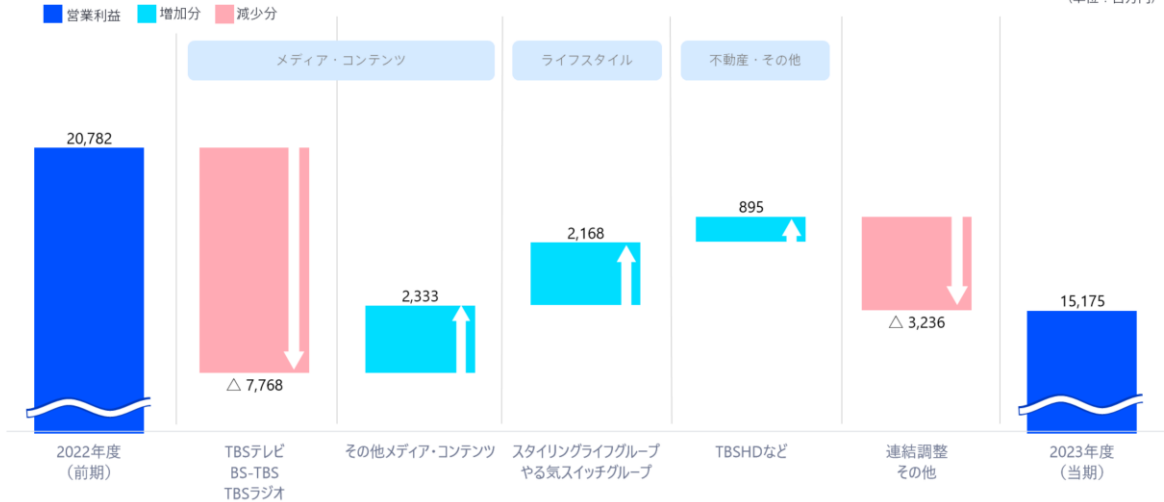
「ライフスタイル」では、やる気スイッチグループの新規連結による増収に加え、スタイリングライフグループの雑貨小売販売事業が大変好調で、大幅な増収となりました。

連結セグメント別 営業利益の増減要因

TBS

メディア・コンテンツ事業は、放送収入が減少する中、番組制作費などが増加し、減益。
ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結に伴う増加に加え、スタイリングライフグループの化粧品、雑貨などの伸長により、増益。
不動産・その他事業は、賃料収入の増加などに伴い増益。連結全体では減益。

(単位：百万円)



9

続いて、営業利益の増減要因です。

「メディア・コンテンツ」は減益となりました。
TBSテレビのスポット収入が大幅に減少する中、
番組制作費が増加したことが主な要因です。

「ライフスタイル」は、
やる気スイッチグループの新規連結に伴う増益に加え、
スタイリングライフグループも好調で、増益となりました。

「不動産・その他」は、
賃料収入の増加などで、増益となりました。

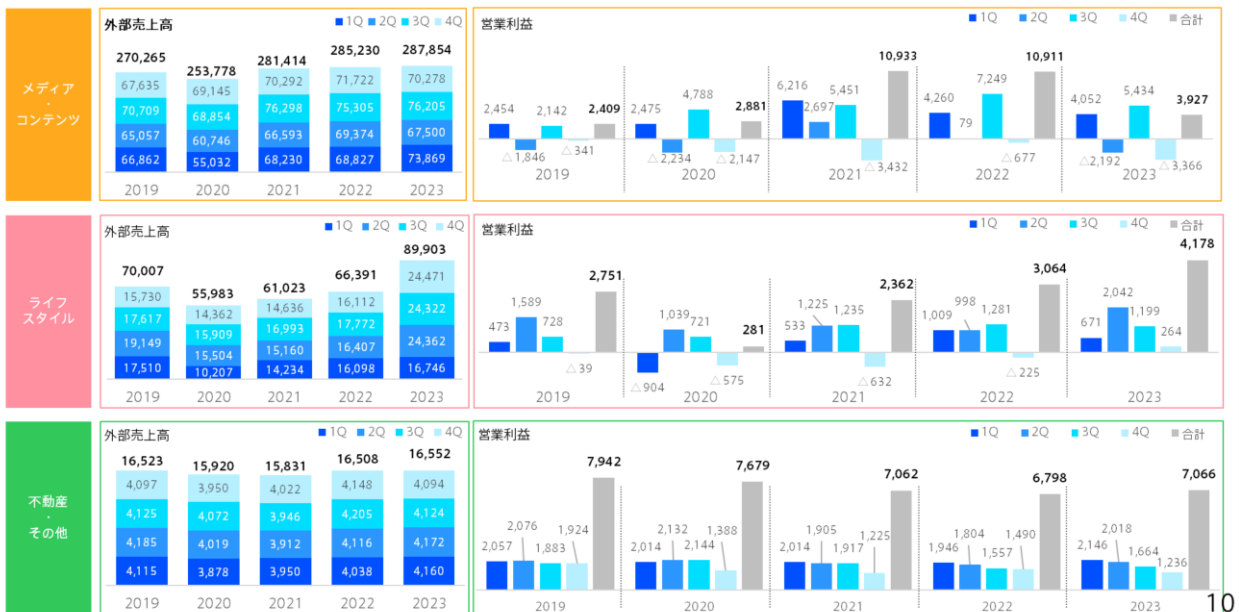
12ページの

「TBSテレビの損益計算書」にお進みください。

連結セグメント別 経年推移

(単位: 百万円)

TBS



(原稿なし)

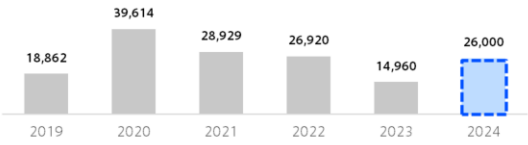
設備投資と減価償却費

TBS

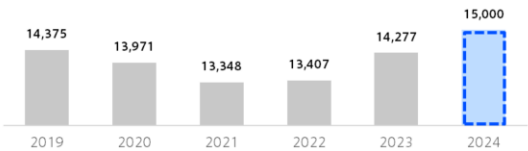
(単位：百万円)

連 結	2023年度	前 年 差	2024年度 予想
設 備 投 資	14,960	△11,959	26,000
減 価 償 却 費	14,277	+870	15,000

連結設備投資



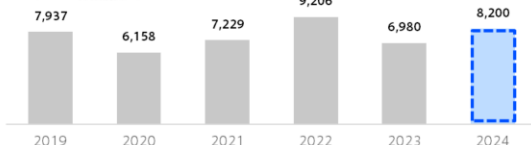
連結減価償却費



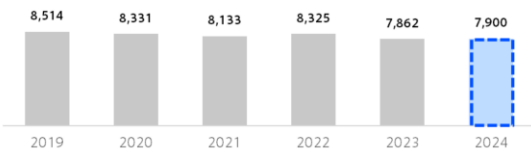
(単位：百万円)

TBS テレビ	2023年度	前 年 差	2024年度 予想
設 備 投 資	6,980	△2,226	8,200
減 価 償 却 費	7,862	△462	7,900

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



(原稿なし)

TBSテレビ 損益計算書

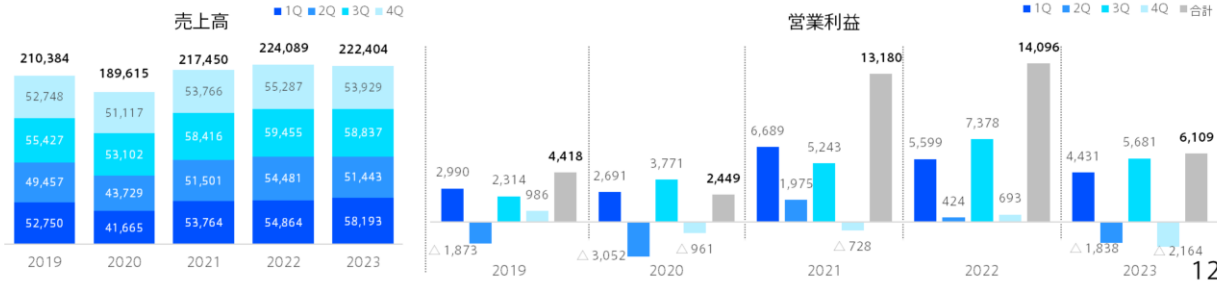
TBS

テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイム収入の大型スポーツ単発や年末年始特別番組のセールス好調による増収に加え、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長、メディア事業の移管により、部門全体では増収。
事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演日数の増加、劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」の大ヒットがあったものの、メディア事業のテレビ部門への移管、「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で、減収。
トータルで減収。営業利益は、スポット収入の減収に加え、番組制作費の増加などにより減益。経常利益以下も減益。
(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度	2023年度	前年差	増減率
売上高	224,089	222,404	△1,684	△0.8%
営業利益	14,096	6,109	△7,986	△56.7%
経常利益	16,818	8,644	△8,173	△48.6%
当期純利益	10,722	5,863	△4,859	△45.3%

営業費用など

■ 番組原価	+2,155
■ 代理店手数料 当期29,729	△747
■ ネットワーク費	+792
■ 事業部門営業費用	△6,362
■ 特別利益 (投資有価証券売却益)	当期4,478
■ 特別損失 (退職給付費用、固定資産撤去費用等)	当期3,698



TBSテレビの損益計算書です。

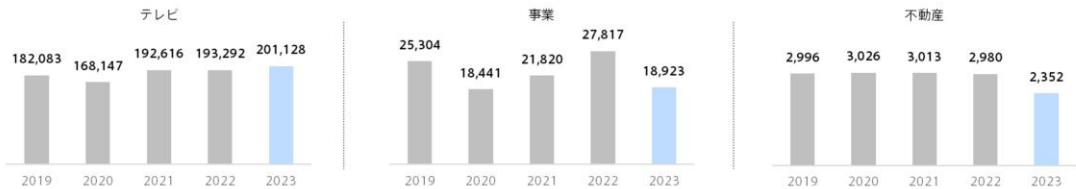
売上高は、マイナス0.8%、金額にして16億円の減収、

営業利益は、マイナス56.7%、金額にして79億円の減益となりました。

	2023年度	前年差	(単位：百万円)
テレビ	201,128	+7,836	
－ タイム	81,590	+1,674	
－ スポット	77,777	△5,191	
－ 配信広告	8,243	+2,575	
－ 有料配信	12,146	+3,245	
－ その他	21,371	+5,533	
事業	18,923	△8,893	
不動産	2,352	△627	
収入合計	222,404	△1,684	

注1 前事業年度においてその他区分で開示していた収入のうち、当事業年度においては有料配信を別掲したうえで、有料配信以外をその他区分で集計しております。
 なお、前事業年度について当該変更による組替を行ったうえで前年差を算出しております。

注2 前事業年度において事業部門に含めていたメディア事業（CS事業）にかかる収入の一部について、第2四半期よりテレビ部門のその他区分で集計しております。
 なお、前事業年度について、当該変更による組替は行わずに前年差を算出してしております。



続いて、事業別の収入内訳です。

テレビ部門は78億円の増収、

事業部門は88億円の減収、

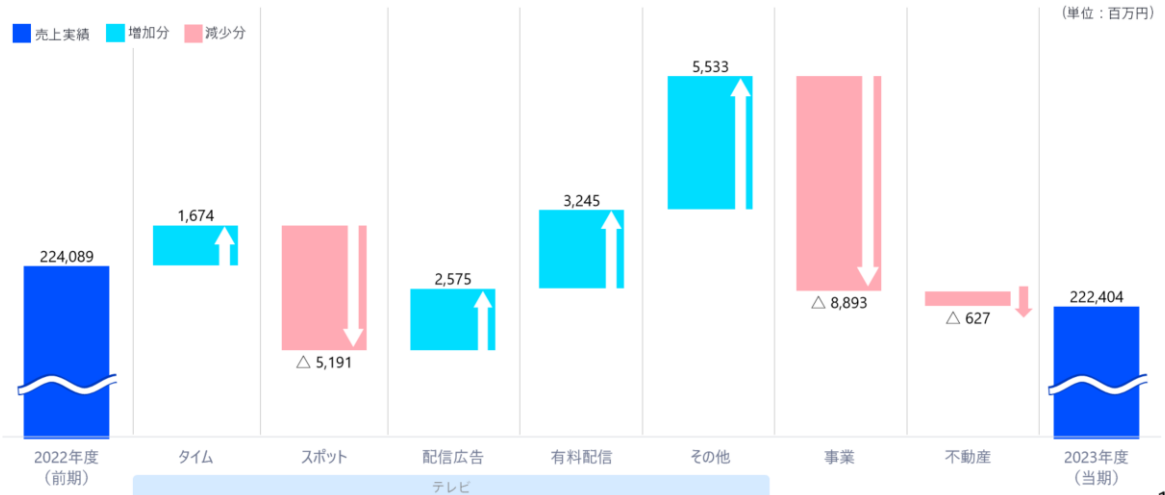
不動産部門は6億円の減収でした。

増減の要因は、次のページでご説明します。

TBSテレビ 売上高の増減要因

TBS

テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイム収入の大型スポーツ単発や年末年始特別番組のセールス好調による増収に加え、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長、メディア事業の移管により、部門全体では増収。
事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演日数の増加、劇場版「TOKYO MER -走る緊急救命室-」の大ヒットがあったものの、メディア事業のテレビ部門への移管、「パリ・サン=ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で、減収。
トータルで減収。



14

まず、テレビ部門についてです。

「タイム」は、堅調なレギュラーセールスに加えて、大型スポーツ単発や年末年始セールスも好調で、増収となりました。

「スポット」は、第4四半期にやや持ち直しましたが、一年を通じた関東地区投下量の減少に伴い、51億円の減収となりました。

これら放送収入の減収分を補ったのが、配信事業です。配信事業の詳細は、後ほどご説明いたします。

事業部門については、前年差がマイナスになりました。7月から、メディア事業を「テレビ」に移管したことや、22年度の「パリ・サン=ジェルマン ジャパンツアー」の反動減が、主な要因です。

※メディア事業はCS事業です。

テレビ番組原価（制作費）

TBS

▶ ドラマ・バラエティなどのコンテンツ強化および、アジア大会などの大型スポーツ単発により増加。

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	前年差
第1四半期	23,218	24,255	+1,036
第2四半期	23,715	25,109	+1,394
第3四半期	24,357	24,855	+497
第4四半期	23,945	23,171	△773
(地上波直接費)	18,248	18,432	+184
(その他直接費および間接費)	5,697	4,739	△958
通期累計	95,236	97,392	+2,155
(地上波直接費)	74,510	77,423	+2,912
(その他直接費および間接費)	20,726	19,968	△757

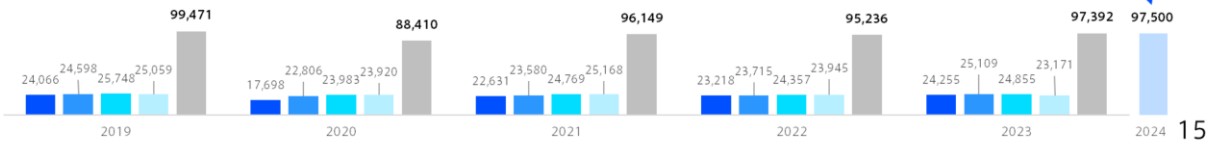
テレビ番組原価に含まれる主な費用

地上波直接費：
番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費
その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費などの配賦原価

2024年度見込み 97,500

地上波直接費： 77,000
その他直接費および間接費： 20,500

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



続いて、テレビ番組原価です。

ドラマ・バラエティなどのコンテンツ強化に加え、
世界陸上やアジア大会など、大型スポーツ単発などの影響で、
制作費は、22年度に比べ、21億円増加しました。

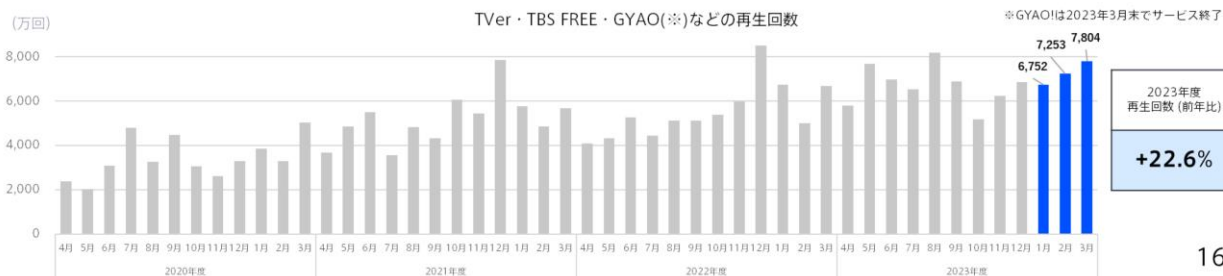
24年度は、
パリ五輪に加え、
ドラマなどコンテンツ強化の継続により、
23年度と同水準を想定しています。

配信事業の状況

TBS

▶ 配信広告収入は、ドラマやバラエティの好調な再生回数を背景に増収。
有料配信収入は、海外配信（Amazon Original「風雲！たけし城」やNetflixシリーズ「離婚しようよ」など）に加え、U-NEXTでの国内有料配信が好調で増収。

	2022年度	2023年度	前年差	増減率
配信広告収入	5,668	8,243	+2,575	+45.4%
有料配信収入	8,900	12,146	+3,245	+36.5%



16

配信事業の状況です。

配信広告収入は、前年比プラス45.4%、

有料配信収入は、前年比プラス36.5%の、大幅な成長となり、
金額では合わせて200億円を超えました。

TVerを中心とした「配信広告収入」は、
1年を通じて安定した高い再生回数を背景に、
予想を上回る伸長となりました。

「有料配信収入」は、

第1四半期の海外OTT向け作品のリリースに加えて、
U-NEXTでの国内視聴が伸長し、大きな売上となりました。

(単位：百万円)

部 門	売上高		粗利益		主な増減要因
	2023年度	前年差	2023年度	前年差	
アニメ	1,071	△820	182	△749	前年大ヒットした映画「五等分の花嫁」や、「プラチナエンド」の配信収入の反動で、減収減益。
映画	3,219	+973	1,460	+524	劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～」の大ヒットなどにより増収増益。
ライブエンタテインメント (旧：催事・興行)	8,729	△1,853	1,075	△207	Kバレエ「眠れる森の美女」が好調だったものの、前年の「パリ・サン＝ジェルマン ジャパンツアー2022」、ドラマ「君の花になる」関連イベントの反動による減収や、7月より展覧会事業をTBSグロウディアに移管した影響により、減収減益。
コンテンツビジネス (旧：マーチャンディングセンター)	1,622	△668	1,253	△290	DVD「クロサギ」「君の花になる」などが好調だったものの、7月より一部をTBSグロウディアに移管したため、減収減益。
グローバルビジネス	1,873	△527	996	△510	Amazon Original「風雲！たけし城」の世界配信に伴い、たけし城のフォーマット販売が好調だったものの、その他のロイヤリティ収入が振るわず、減収減益。
メディア事業・eスポーツ	2,406	△5,996	602	△1,793	7月以降はテレビ部門に移管。
その他営業費用			△1,659	+494	
部門計	18,923	△8,893	3,911	△2,531	事業部門全体では、減収減益。

続いて、TBSテレビの事業部門の収益です。

「映画」は、劇場版「TOKYO MER」の大ヒットで好調でしたが、「アニメ」や「ライブエンタテインメント」は、22年度の収益に届きませんでした。

7月より、「コンテンツビジネス」は、テレビショッピングの一部をTBSグロウディアに移管し、「メディア事業」は、テレビ部門に移管いたしました。

このような移管などの変化もある中で、部門全体では減収減益となりました。

主なグループ会社の状況

TBS

(単位：百万円)

	売上高				営業利益				主な増減要因
	2022年度	2023年度	前年差	2024年度 予想	2022年度	2023年度	前年差	2024年度 予想	
TBSラジオ	8,490	8,137	△352	8,300	368	78	△290	160	広告収入で、タイム収入は前年を上回るも、スポット収入が減収となり、減収増益。
BS-TBS	17,218	17,108	△110	17,500	2,780	2,929	+149	3,130	スポット収入およびショッピングが好調だった一方、事業収入の苦戦により減収。 営業利益は増益を確保。
TBS グロウディア	28,089	30,193	+2,103	31,800	337	1,213	+876	1,910	DVD収入の増加に加え、 展覧会事業とTVショッピングなどの一部がTBSテレビから移管されたこともあり、増収増益。
日音	8,574	9,271	+696	10,200	836	910	+73	1,000	邦楽・洋楽収入の増加などにより、 増収増益。
TCエンタ テインメント	7,122	9,373	+2,251	7,800	474	615	+140	550	DVD販売の増加により、増収増益。

続いて、18ページです。

主なグループ会社の状況は、

ご覧の通りとなっております。

スタイリングライフグループ

TBS

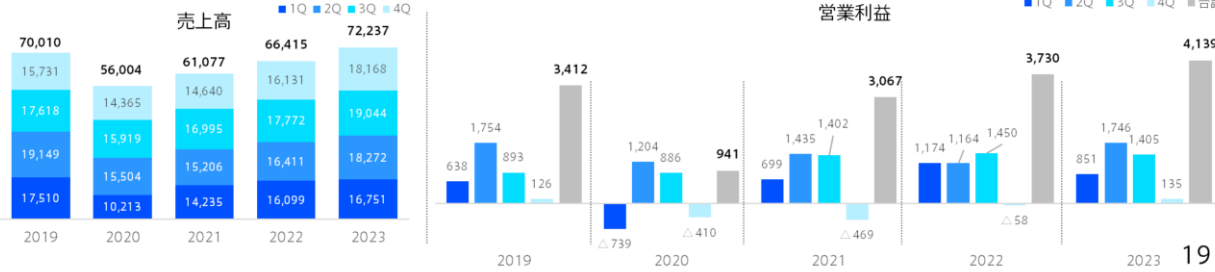
雑貨小売販売事業は、化粧品、雑貨などが伸長したことにより、増収。
通信販売事業は、受注の減少により、減収。
ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品の国内・海外販売が引き続き好調で増収。グループ全体では、増収増益。

(単位：百万円)

(単位：百万円)

連結	2022年度	2023年度	前年差	2024年度 予想	事業別	売 上 高(※)		
						2022年度	2023年度	前年差
売上高	66,415	72,237	+5,822	63,000	雑貨小売販売事業	36,650	41,741	+5,090
					通信販売事業	16,437	15,723	△713
営業利益	3,730	4,139	+408	3,730	ビューティ＆ウェルネス事業	13,644	15,082	+1,438
					本社およびその他	△316	△311	+5
					計	66,415	72,237	+5,822

※事業別の売上高は管理会計上の数値



続いて、スタイリングライフグループの業績です。

中核の「雑貨小売販売事業」がけん引し、
売上高はコロナ禍前の水準を上回り、
営業利益は過去最高を更新しました。

なお、24年度の予想につきましては、
昨日開示いたしました、連結子会社の株式譲渡の件を織り込んだものです。

やる気スイッチグループ

※やる気スイッチグループは 国際会計基準（以下、IFRS）を適用しており、連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、23年6月～24年2月の9か月分を取り込んでおります

TBS

個別指導塾事業および幼児教育事業は、教室数および生徒数増加、加えて9月からの授業料などの値上げにより、両事業ともに増収。グループ全体では、事業の順調な成長による増収の一方、TBSグループ入りに伴う一過性のトランザクション関連費用(※1) 856百万円が上期に発生したことにより、減益。なお、トランザクション関連費用(※1)を除外した営業利益は2,677百万円。

(単位：百万円)

連結	2022年度	2023年度	前年差	2024年度 予想
売上収益	21,649	22,691	+1,042	25,100
営業利益	2,550	1,821	△729	3,530
営業利益※1 トランザクション関連費用除く	2,550	2,677	+127	3,530

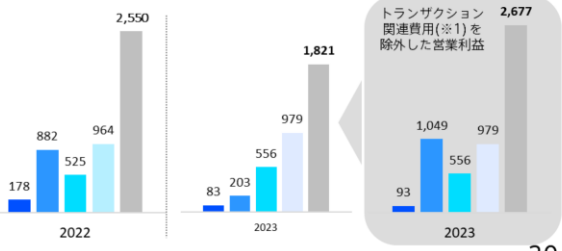
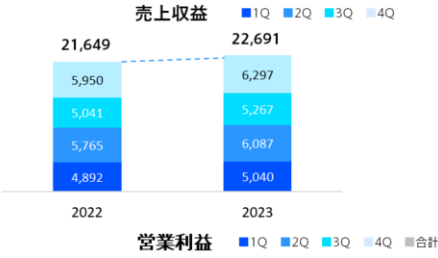
※1 IFRS上、当該トランザクション関連費用は営業利益に算入されるが、日本基準においては特別損失での計上となり、TBSグループとしての連結営業利益には影響を与えないため、当該費用を控除した数値を参考に算出

(単位：百万円)

事業別	売上収益※2		
	2022年度	2023年度	前年差
個別指導塾事業	10,942	11,226	+284
幼児教育事業	10,707	11,465	+758
計	21,649	22,691	+1,042

※2 事業別の売上収益は管理会計上の数値

(※1) やる気スイッチグループがTBSグループ入りに伴い発生した費用 (IFRS) を指し、連結上では日本基準に組み替えて一部を特別損失に計上しております



続いて、やる気スイッチグループの業績です。

個別指導塾事業、幼児教育事業ともに、教室数と生徒数が増加し、増収。

一方、TBSグループ入りに伴うトランザクション関連費用が、8億5千6百万円発生した事により、減益となりました。

ただし、トランザクション関連費用を控除した営業利益で見ますと、26億7千6百万円と、22年度を1億2千万円ほど上回っており、事業成長に伴う利益は確実に向上しております。

なお、やる気スイッチグループは、国際会計基準（IFRS：イファース）を適用しており、連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、23年6月から24年2月までの9か月分を取り込んでおります。

2023年度 通期決算ハイライト

2024年度 業績見通し

株主還元

TBSグループ中期経営計画2023の実績

今後の重点施策

参考資料

続いて、業績見通しです。

2024年度 連結業績予想

TBS

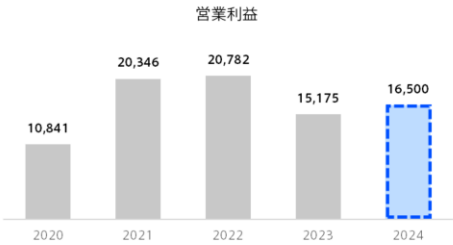
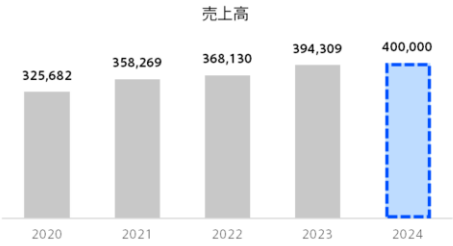
放送収入は前年と同水準としつつも、成長分野である配信などの拡大や、スタイリングライフグループの雑貨小売販売事業、ビューティー&ウェルネス事業や、やる気スイッチグループの成長などを見込み、増収かつ営業増益を予想。一方、経常利益は受取配当金の減少などにより、減益予想。
親会社株主に帰属する当期純利益は、前年の投資有価証券売却益の反動減の影響もあり、減益幅の拡大を予想。

(単位：百万円)

連 結	2023年度 実績	2024年度 予想	前年差
売 上 高	394,309	400,000	+5,690
営 業 利 益	15,175	16,500	+1,324
経 常 利 益	27,653	26,100	△1,553
親会社株主に帰属する 当期純利益	38,126	21,600	△16,526

(単位：百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2023年度 実績	2024年度 予想	前年差	2023年度 実績	2024年度 予想	前年差
メディア・コンテンツ	287,854	294,700	+6,845	3,927	6,400	+2,472
ライフスタイル	89,903	88,200	△1,703	4,178	4,200	+22
不動産・その他	16,552	17,100	+547	7,066	5,900	△1,166
調整額	—	—	—	3	—	△3
連 結	394,309	400,000	+5,691	15,175	16,500	+1,325



連結の業績予想です。

増収と営業増益を予想しております。

セグメント別では、

「メディア・コンテンツ」は配信の伸長等で増収増益。

「ライフスタイル」は、
スタイリングライフグループの子会社株式譲渡を織り込み、
減収となりますが、増益を確保。

「不動産・その他」は、
減価償却費の増加などで、減益です。

2024年度 TBSテレビ業績予想

TBS

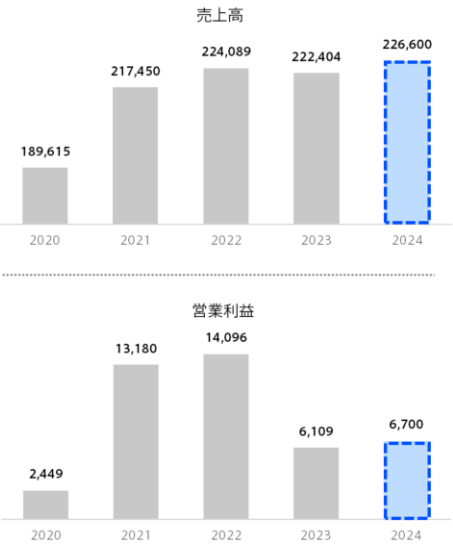
▶ 放送収入は前年と同水準としつつも、成長分野である配信の拡大で、増収増益を予想。
当期純利益は、投資有価証券売却益の増加などにより増益幅の拡大を予想。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2023年度 実績	2024年度 予想	前年差
売上高	222,404	226,600	+4,195
営業利益	6,109	6,700	+590
経常利益	8,644	9,100	+455
当期純利益	5,863	8,100	+2,236

(単位：百万円)

	2023年度 実績	2024年度 予想	前年差	増減率
タイム	81,590	79,300	△2,290	△2.8%
スポット	77,777	79,500	+1,722	+2.2%
番組原価	97,392	97,500	+107	+0.1%



続いて、TBSテレビの業績予想です。
増収増益を予想しております。

放送収入については、
タイムは、レギュラーのベースアップを見込む一方、
大型単発番組の減少などにより減収を予想。
スポットは、大型単発の減少によるセールス枠の反動増に加え、
継続的なコストアップにより、増収を予想。

配信事業については、
有料配信収入での反動減があるものの、
配信広告収入で、引き続き成長を見込んでいます。

番組原価については、
パリ五輪に加え、
コンテンツ強化を前提とした「選択と集中」を図るため
微増の見込みです。

2023年度 通期決算ハイライト

2024年度 業績見通し

株主還元

TBSグループ中期経営計画2023の実績

今後の重点施策

参考資料

次に株主還元です。

株主還元方針と年間配当予想

TBS

(旧) 基本方針

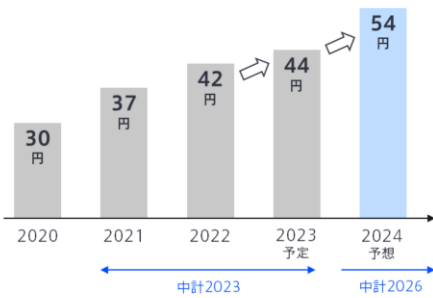
連結ベースの配当性向30%を目処としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。
業績伸長などの際には、特別配当などにより還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。

(新) 基本方針

連結ベースの配当性向**40%**を目処として、安定的かつ継続的に配当を実施するとともに、**総還元性向**を意識したうえで、自己株式の取得も機動的に実施する。

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★)の影響を除いた配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
2023年度 (予定)	22	22	44	18.9	34.4
2024年度 (予想)	27	27	54	40.4	—

(★) 中長期的収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2023年度は2円増配の44円を予定。
2024年度は10円増配の54円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。

まず、株主還元方針と年間配当予想についてです。

23年度の一株当たりの年間配当金は44円で、
22年度から2円増配の予定です。

24年度は、配当方針を変更します。
目処とする配当性向を30%から40%に上げ、
総還元性向を意識したうえで、
自己株式の取得も機動的に行ってまいります。

24年度の配当は、さらに10円増配し、
中間配当27円、期末配当27円の、合計54円を予想しております。

キャッシュ・アロケーションにおける株主還元の位置づけ、
意味合いにつきましては、
のちほど、中計2026の説明の中で
お伝えいたします。

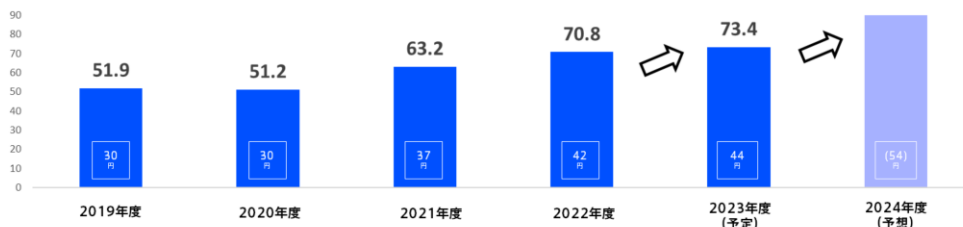
配当総額と自己株式取得推移

TBS

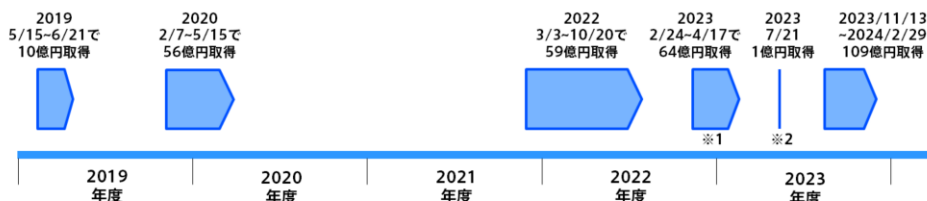
▶ 安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、総還元性向を意識した上で、自己株式の取得も機動的に実施する。

配当総額 (億円)

□ は1株当たり配当金



自己株式取得



※1 当社が資金を拠出し、株式付与ESOP信託が所有する株式

※2 当社が役員向け株式交付信託に処分した株式

26

26ページでは、配当総額と自己株式取得の推移をお示ししています。

当社はこの6年の間で、
株主還元および資本効率の向上や
役員や従業員に対するインセンティブ・プランの導入を目的として、
300億円規模の自己株式の取得を実施しております。

外資規制の中ではありますが、
引き続き、機動的な取得を行って
株主価値の向上に努めてまいります。

2023年度 通期決算ハイライト

2024年度 業績見通し

株主還元

TBSグループ 中期経営計画2023の実績

今後の重点施策

参考資料

続いて、
「TBSグループ 中期経営計画2023」
の実績です。

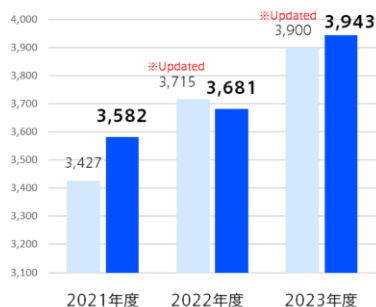
売上高・営業利益・簡易EBITDAの実績

TBS

単位：億円

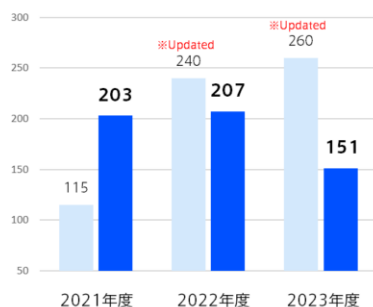
■ 中計2023 目標 ■ 実績 ※2021年度の実績が当初の中計2023を上回る水準であったため、アップデートを実施。

売上高



目標を達成

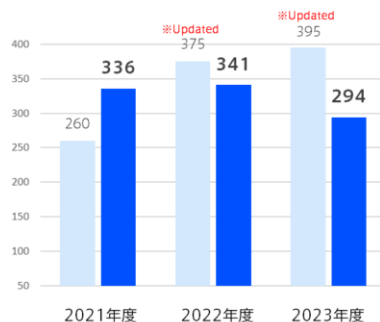
営業利益



スポット低迷などにより、未達

簡易EBITDA

簡易EBITDA=営業利益+減価償却費



売上高は目標を達成。

一方で、

営業利益と簡易EBITDAについては、

スポット収入の低迷などにより、未達となりました。

放送事業と放送事業以外の収入割合

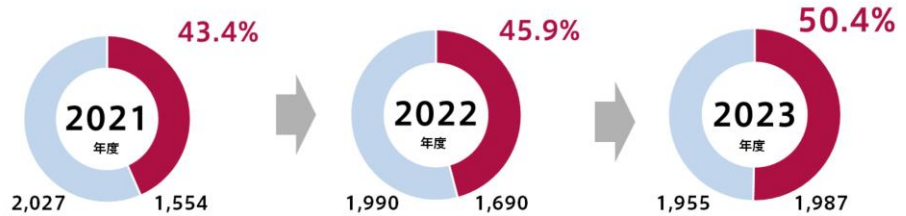
TBS

単位：億円

▶ 「TBSグループVISION2030」では放送事業の価値向上に努めながら、EDGE戦略の推進によって放送事業以外の売上高比率を拡大させ、2030年にはグループ全体の収入の60%にまで高めることを目指す。
2024年度より放送事業の定義を変更。これまで配信広告収入を「放送事業以外」に加算していたが、「放送事業」に加算する。

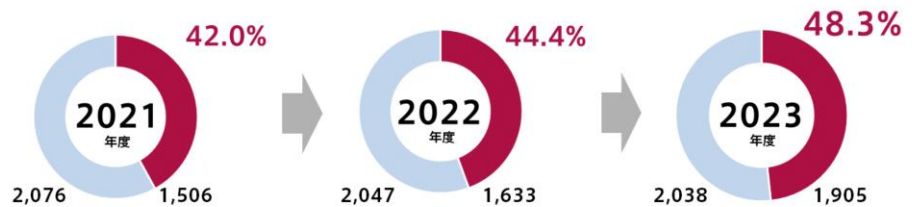
変更前

■ 放送事業
■ 放送事業以外



変更後

■ 放送事業 (配信広告収入を含む)
■ 放送事業以外



29

続いて、放送事業と放送事業以外の収入割合についてです。

「TBSグループVISION2030」では、
放送事業と放送事業以外の比率を、
2030年に40：60にするという目標を掲げております。

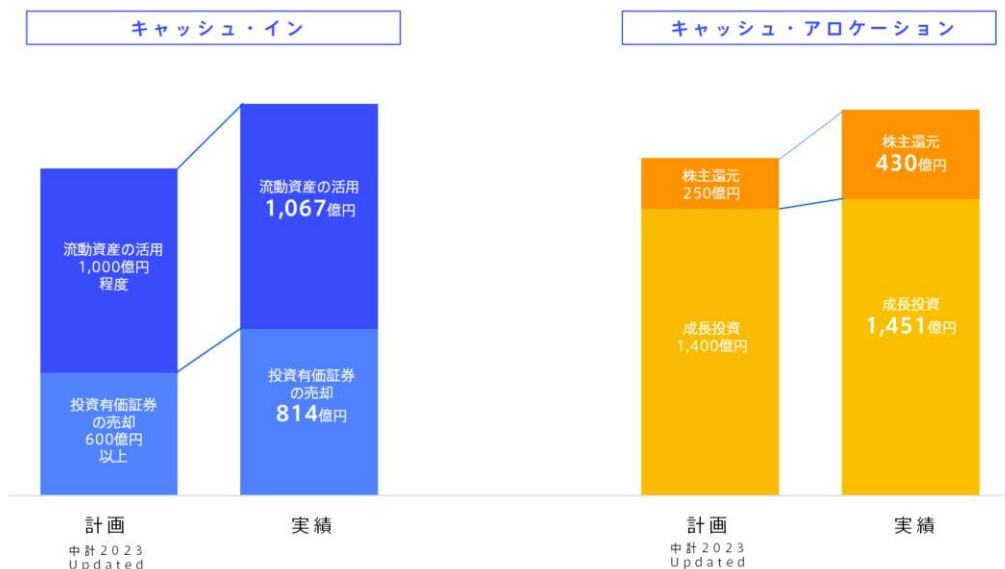
今回、中計の更新に際し、「放送事業」の定義を精査し、
配信広告収入を「放送事業」側に加算するように変更いたしました。

放送事業以外の割合は、変更後の基準で48.3%まで、
順調に上昇いたしました。
なお、変更前基準では50.4%でした。

キャッシュ・アロケーションの実績

(2021年度～2023年度)

TBS

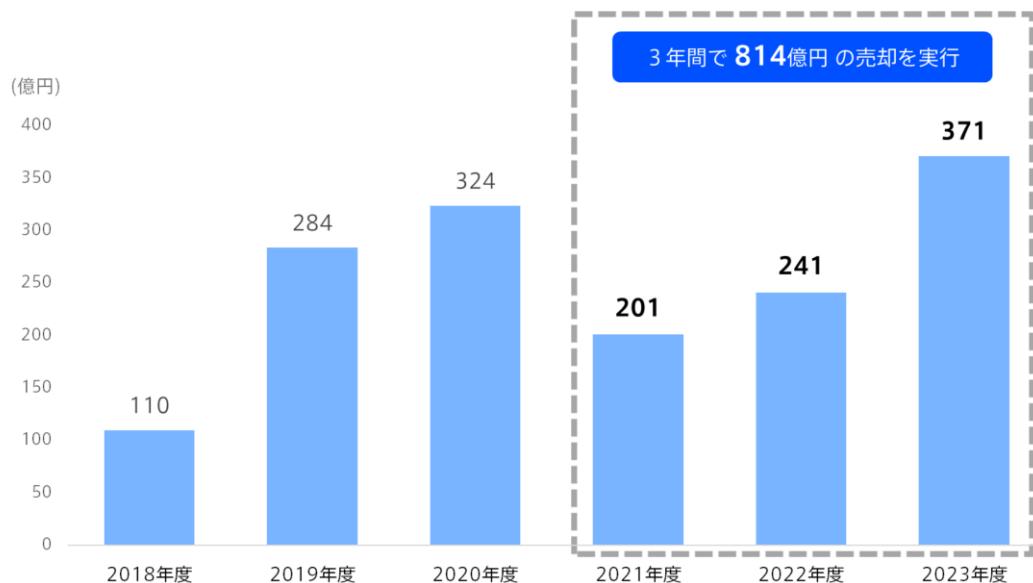


30

続いて、キャッシュ・アロケーションの実績です。

キャッシュインの実績としては、
投資有価証券売却600億円以上の計画に対し、
814億円と大きく計画を上回りました。

また、キャッシュアロケーションとしては、
株主還元は250億円の計画に対し、430億円。
成長投資は1,400億円の計画に対し、1,451億円と、
いずれも計画値を上回りました。



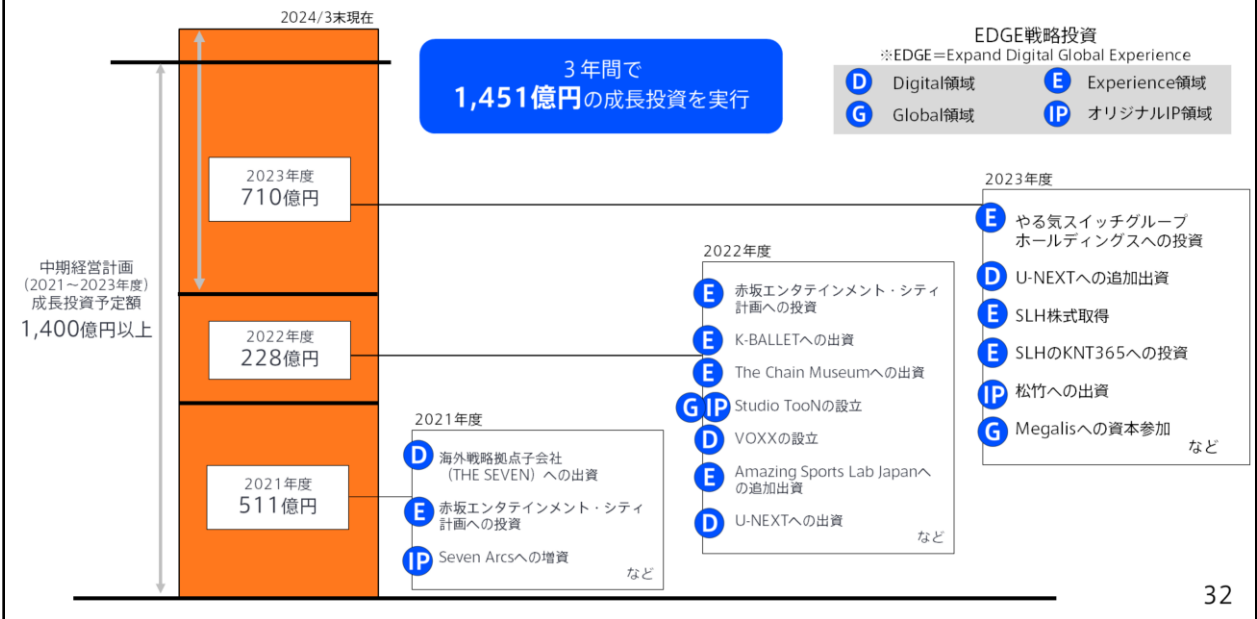
続いて、政策保有株式売却の推移です。

棒グラフは直近6年間の政策保有株式の売却実績です。
6年合計で1,500億円を超える売却を実行しております。

従来の方針通り、政策保有株式に関しましては、
成長戦略の原資として売却するとともに、
保有の意義が希薄化したと判断した株式について、
売却して参ります。

成長投資の実績

TBS



32

最後に、成長投資の実績です。
3年間で総額1,451億円の成長投資を実行いたしました。

23年度の具体的な投資案件は、
・やる気スイッチグループホールディングスへの投資、
・U-NEXTへの追加出資
など、700億円を超える規模の、充実した内容となりました。

引き続き、成長投資は続けてまいります、
詳しくは、
この後の中計2026の説明をお聞きください。

私からのご説明は以上です。